

## 房総半島のサンゴヤドカリ類 (Crustacea: Anomura: Diogenidae)

村田憲要<sup>1)</sup>・渡邊精一<sup>1)</sup>・朝倉 彰<sup>2)</sup>

1) 東京水産大学資源育成学科

〒108 東京都港区港南4-5-7

2) 千葉県立中央博物館

〒280 千葉市青葉町955-2

**要 旨** サンゴヤドカリ属 *Calcinus* のヤドカリは、熱帯、亜熱帯の浅海域に広く分布し、その北限は紀伊半島とされていたが、近年 Imanaka *et al.* (1984) は房総半島でスベスベサンゴヤドカリ *Calcinus laevimanus* を記録した。筆者らは同地において1984年からヤドカリ類の個体群調査を行ってきたが、その過程において5種のサンゴヤドカリ類、スベスベサンゴヤドカリ *C. laevimanus*、ユビワサンゴヤドカリ *C. elegans*、クリイロサンゴヤドカリ *C. gaimardii*、ツマジロサンゴヤドカリ *C. latens*、ウスイロサンゴヤドカリ *C. seurati*、が棲息していることを確認した。このうちウスイロサンゴヤドカリについては夏期に抱卵個体が採集され、同地での再生産の可能性が示唆された。これらのことより、南房総域の海中は黒潮の影響を強く受けて熱帯要素が多く配分されているものと考えられる。

**キーワード**：サンゴヤドカリ、分布北限、房総半島。

サンゴヤドカリ属 *Calcinus* のヤドカリは、熱帯、亜熱帯の浅海域、特に珊瑚礁の発達する海岸に多く棲息し、本邦には9種の分布が確認されている(三宅, 1982)。これらは南西諸島や小笠原諸島に多産し、その分布北限は、三宅・今福(1980)によればスベスベサンゴヤドカリ *Calcinus laevimanus*、ユビワサンゴヤドカリ *C. elegans*、クリイロサンゴヤドカリ *C. gaimardii*、ツマジロサンゴヤドカリ *C. latens*、ウスイロサンゴヤドカリ *C. seurati*、アカツメサンゴヤドカリ *C. minutus*、チャイロサンゴヤドカリ *C. pulcher* の7種が紀伊半島、シロサンゴヤドカリ *C. lividus* が沖縄(三宅, 1978)、ミドリサンゴヤドカリ *C. vachoni* が奄美(Baba, 1982)とされてきた。

しかし、近年房総半島においてスベスベサンゴヤドカリが、Imanaka *et al.* (1984) により鷗原(千葉県勝浦市)(Fig. 1)から記録され、また筆者らは同種を含む5種のサンゴヤドカリを採集したのでここに報告する。

稿を草するにあたり貴重な標本を貸与していただいた東京水産大学の山川紘博士、採集に協力していただいた岩手県南部栽培漁業センターの山口浩史氏、東京水産大学生物資源学研究室の学生諸氏に感謝の意を表す。

### 方 法

筆者らは1984、85年に千葉県安房郡天津小湊町の東京水産大学小湊実験実習場(現在、千葉大学理学部付属海洋生物環境解析施設)、1986~90年に同大学

坂田実験実習場(千葉県館山市)(Fig. 1)にて周年ヤドカリ類の個体群調査を行ってきた。その過程で採集されたサンゴヤドカリ類につき、雌雄、前甲長(SL)、採集地、および採集日を記録した。採集はおもに潮間帯で行ったが、スキューバ潜水による採集もあわせて行った。なお採集地については、小湊実験実習場を小湊、坂田実験実習場を坂田と略記し、種の同定にあたっては三宅(1982)によった。また宿貝の同定は奥谷(1986)によった。

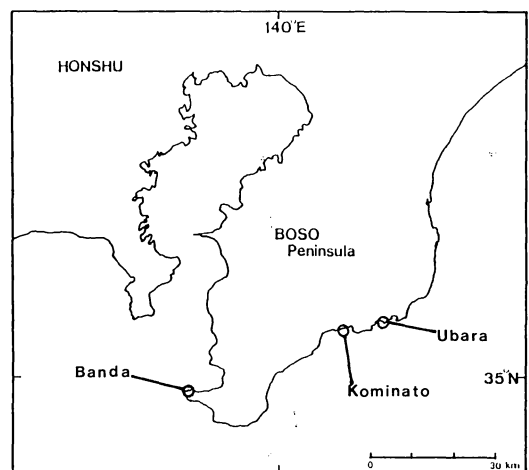


Fig. 1. Locations of Ubara (Imanaka *et al.* 1984) and study areas, Banda and Kominato, on Boso Peninsula.

また、標本は、千葉県立中央博物館に保管されているものには、CBM-ZC、東京水産大学生物資源学教室に保管されているものはTFU-ABと記す。

### 種の特徴と記録

今回採集されたサンゴヤドカリ属は以下の5種である。このうちツマジロサンゴヤドカリとウスイロサンゴヤドカリは一年を通じて採集され、後者においては、夏期に抱卵個体も採集され同地での再生産の可能性が示唆された。しかし、他の3種は秋から初冬にかけてのみ、しかも小型個体だけが採集された。これら3種は冬期の水温の低下により死滅してしまうとも考えられるが、今回は主として潮間帯での調査を行っているので、潮間帯に比して水温変化の小さい潮下帯での調査努力を増やせば、他の季節にも発見できる可能性がある。

相模湾には分布していない本属が(三宅, 1978)房総半島に棲息していたことは非常に興味深く、南房総域の海中は黒潮の影響を強く受けて熱帯要素が多く配分されていることは注目し値する。

#### 1. スベスベサンゴヤドカリ *Calcinus laevimanus* (Randall, 1839)

(Fig. 2.A)

検討標本. 2個体(CBM-ZC-689, 雌, SL=2.55mm : CBM-ZC-690, 雄, SL=2.05mm), 坂田, 1989. IX. 16, 2個体(CBM-ZC-691, 雌, SL=2.65mm : CBM-ZC-692, 雄, SL=2.10mm), 坂田, 1989. X. 16.

Imanaka *et al.* (1984) が鵜原から記録した個体は、頭胸甲長1.6mmの幼体(性別不明)で1982年11月2日に潮下帯より採集された。今回採集した個体はすべてこれより大型で、また潮間帯上部のタイドプールで採集された。

左鉗脚が著しく大きくその掌部は白色で、他の部

分は一様に黒褐色をしている。眼柄および第一触角柄には橙黄色の地に淡青色の環状部がある。宿貝はコシダカサザエ *Trubo (Marmarostoma) stenogyrys*, フトコロガイ *Euplica versicolor* の2種である。

#### 2. ユビワサンゴヤドカリ *Calcinus elegans* (H. Milne Edwards, 1836)

検討標本. 1個体(雄), 坂田, 1987. XI. 3.

歩脚は淡青色の地に黒褐色の縞模様がある。眼柄は淡青色。学名が示すようにサンゴヤドカリ属の中でもとりわけ優雅な外見をしている。潮間帯上部から採集した小型の種不明数個体を実験室で飼育したところ、その中の一個体が本種であることがわかった。現在までのところこの一個体のみしか発見されていない。宿貝はコシダカサザエ *Trubo (Marmarostoma) stenogyrys* である。

#### 3. クリイロサンゴヤドカリ *Calcinus gaimardii* (H. Milne Edwards, 1848)

(Fig. 2.B)

検討標本. 1個体(CBM-ZC-693, 雄, SL=2.20mm), 小湊, 1984. XII. 25.

鉗脚, 歩脚は一様に栗色で、眼柄は先端部が淡青色をしている。潮下帯よりスキューバ潜水により採集された一個体のみ記録された。

#### 4. ツマジロサンゴヤドカリ *Calcinus latens* (Randall, 1839)

(Fig. 2.C)

検討標本. 4個体(CBM-ZC-694, 雄, SL=3.80mm : CBM-ZC-695, 雄, SL=3.20mm : CBM-ZC-696, 雄, SL=2.60mm : CBM-ZC-697, 雌, SL=3.20mm), 小湊, 1984. VIII. 14, 2個体(TFU-AB, 雄, SL=1.50mm : TFU-AB, 性別不明, SL=1.45mm), 坂田, 1988. VII. 30, 1個体(CBM-ZC-698, 雌,

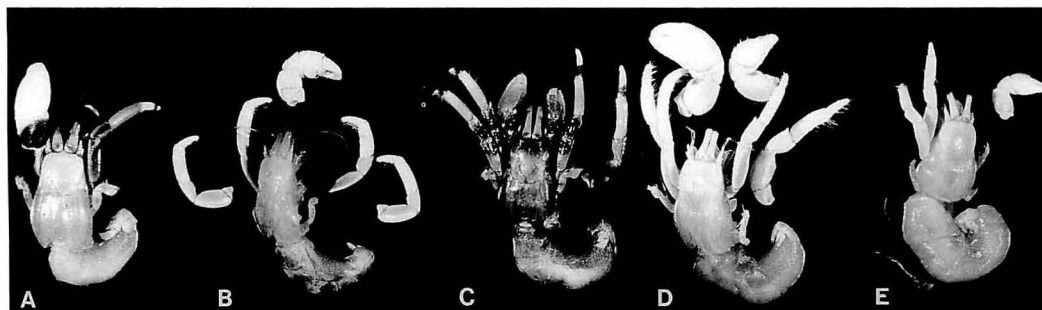


Fig. 2. Hermit crabs of genus *Calcinus* from Boso Peninsula. A: *Calcinus laevimanus* (Randall, 1839), female, SL=2.65mm, CBM-ZC-691. B: *Calcinus gaimardii* (H. Milne Edwards, 1848), male, SL=2.20mm, CBM-ZC-693. C: *Calcinus latens* (Randall, 1839), male, SL=2.95mm, CBM-ZC-701. D: *Calcinus seurati* Forest, 1951, male, SL=3.80mm, TFU-AB. E: *C. seurati* Forest, 1951, ovigerous female, SL=2.85mm, TFU-AB.

SL=2.40mm), 坂田, 1989. X. 15, 4 個体 (CBM-ZC-699, 雄, SL=2.90mm: CBM-ZC-700, 雄, SL=2.85mm: CBM-ZC-701, 雄, SL=2.95mm: CBM-ZC-702, 雌, SL=3.00mm), 坂田, 1989. X. 17, 1 個体 (CBM-ZC-703, 雌, SL=2.05mm), 坂田, 1989. XI. 15.

体色は暗緑色で鉗脚, 歩脚の先端部は黄白色をしている。潮間帯下部から潮下帯にて採集された。潮下帯の個体の方が比較的大型であった。次種のウスイロサンゴヤドカリとともに坂田では本属の中で最も多い。宿貝はコシダカサザエ *Trubo (Marmarostoma) stenogyrus*, ヒメヨウラク *Ergalatax contractus*, フトコロガイ *Euplica versicolor*, マツムシ *Pyrene testudinaria tylerae* である。

5. ウスイロサンゴヤドカリ *Calcinus seurati*  
Forest, 1951

(Fig. 2.D, E)

検討標本. 3 個体 (CBM-ZC-704, 雌, SL=2.55mm: CBM-ZC-705, 抱卵雌, SL=2.45mm: CBM-ZC-706, 抱卵雌, SL=2.15mm), 小湊, 1984. VII. 29, 4 個体 (TFU-AB, 雄, SL=3.80mm: TFU-AB, 雌, SL=2.55mm: TFU-AB, 抱卵雌, SL=2.85mm: TFU-AB, 抱卵雌, SL=2.50mm), 坂田, 1987. VII. 22, 1 個体 (CBM-ZC-707, 雌, SL=2.00mm), 坂田, 1988. VI. 2, 1 個体 (CBM-ZC-708, 抱卵雌, SL=2.45mm), 坂田, 1988. VII. 1, 1 個体 (CBM-ZC-709, 雌, SL=1.75mm), 坂田, 1988. VII. 2.

体色は淡緑色で触角は赤橙色をしている。潮間帯下部から潮下帯にて通年採集された。宿貝はヒメヨウラク *Ergalatax contractus*, フトコロガイ *Euplica versicolor*, ネジガイ *Gyroscaia perplexa* である。

文 献

- Baba, K. 1982. Galatheids and pagurids of the Palau Islands (Crustacea: Anomura). Proc. Jap. Soc. syst. Zool. 23: 56-70.  
Imanaka, T., Y. Sasada, H. Suzuki, S. Segawa and T. Masuda 1984. Crustacean decapod fauna in

- Kominato and adjacent waters, middle Honshu: A provisional list. J. Tokyo Univ. Fish. 71: 45-74.  
三宅貞祥. 1978. 相模湾産甲殻異尾類. 161pp. + 4 図版. 生物学御研究所.  
三宅貞祥. 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 261pp. 保育社, 大阪.  
三宅貞祥・今福道夫. 1980. 紀州産ヤドカリ類 I. 南紀生物 22: 1-7.  
奥谷喬司. 1986. 生物大図鑑 貝類. 399pp. 世界文化社, 東京.

Hermit crabs of genus *Calcinus*  
(Crustacea: Decapoda: Anomura)  
from Boso Peninsula

Kenyo Murata<sup>1)</sup>, Seiichi Watanabe<sup>1)</sup>  
and Akira Asakura<sup>2)</sup>

1) Department of Aquatic Biosciences  
Tokyo University of Fisheries

4-5-7 Konan, Minato, Tokyo 108, Japan

2) Natural History Museum and Institute, Chiba  
955-2 Aoba-Cho, Chiba 280, Japan

Hermit crabs of genus *Calcinus* are world-widely distributed in shallow water and coral reefs of tropical and subtropical areas. Although the northern limit of their distribution was known as Kii Peninsula, Japan, recently *Calcinus laevimanus* was recorded from Boso Peninsula, Japan, by Imanaka *et al.* (1984). We collected *Calcinus laevimanus*, *C. elegans*, *C. gaimardii*, *C. latens* and *C. seurati* from Boso Peninsula. This shows that southern Boso is highly influenced by the warm oceanic current, Kuroshio, arising from the tropical west Pacific. In particular, occurrence of the ovigerous females of *C. seurati* in summer suggests that this species reproduces themselves in this area.